

II-6. 国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラムの在り方について

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業は、国公立19大学の連携のよって、第3期中期目標期間である2016年（平成28年）度～2021年（令和3年）度までの6年間、高度先導的薬剤師の養成に、主な5つのアドバンスト教育研究プログラムを始めとする様々な教育研究活動を行ってきた。実施した教育研究活動とその成果は、本報告書のII-2～II-5に示した通りである。

現在の薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）は、2013年に改訂され2015年度入学生から適用された。現コアカリによって学部教育を修了した卒業生は未だ2期しかないが、コアカリは早くも医学部、歯学部のコアカリ改訂に合わせて2022年度中に再改訂され、2028年（令和6年）度入学生からの導入されることとなり、2019年度末から学習成果基盤型教育に基づいたコアカリへの改訂が始まっている。これに加えて、2017年度には「全ての大学等において三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表する」ものとする文部科学省・省令改正が施行され、2020年度には高大接続を重視した「学力の三要素」の的確な評価が求められる入試改革が始まり、さらに2020年2月に「大学がシステムとして確立した大学運営の在り方を示し、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組を促す契機とする」ことを目的に教学マネジメント指針が示されるなど、2016年度から2021年度までの第3期中期目標期間は、薬学にける教育研究において非常に大きな変革期となった。「教学マネジメント指針」では、“学修成果・教育成果を最大化するためには教職員の能力向上が必要不可欠”であり、各大学はディプロマ・ポリシーに沿った学修者本位の教育を提供するために最適なFD・SDを組織的かつ体系的に実施していく必要があるとしている。FD・SDは、大学全体レベル、学位プログラムレベル、授業科目レベルで教育を改善する重要な活動と位置付けられており、言い換えれば、FD・SDは本事業の参画大学が“高度先導的薬剤師の養成”に向けて真摯に取り組み、高度化を図るべき重要な事案と言える。

このような教育研究活動の変革が求める中で、国公立19大学は、2018年度に本事業に係る機能強化経費が基幹経費化され、本事業における取組や教育研究プログラムは各大学に定着し、継続的に実施される位置づけとなった。これを契機として、2019年に国公立大学薬学部長（科長・学長）会議のもとに国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会を設置し、薬学教育研究における諸課題に対する的確な対応、すなわち変革に堪えて教育研究活動の充実と高度化を達成するための方策の提言とその全国公立大学の連携による推進を図っているところである。

そこで本項では、各実施年度末の参画大学からの事業成果報告の提出と共に行った「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動」及び「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動」に関するアンケートの結果について報告する。

1. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動

本事業に参画している国公立19大学においては、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づいて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師の養成に取り組んでいる。

2020年2月、中央教育審議会大学分科会は、教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示すことにより、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真摯な検討と取組を促す契機とすることを目的として「教学マネジメント指針」をとりまとめた（概要：図1）。この中で、教学マネジメントは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義でき、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みとされ、「教学マネジメント指針」の構造は以下のとおりとされている。

- I. 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
- II. 授業科目・教育課程の編成・実施
- III. 学修成果・教育成果の把握・可視化
- IV. 教学マネジメントを支える基盤
- V. 情報公表



図1 「教学マネジメント指針」・概要

このうち、「IV. 教学マネジメントを支える基盤」については、I～IIIの取組を実現する上で、FD及びSDを通じた教職員の能力の向上や教育改善活動、教学に関わる教学IRの進展が必要不可欠である、とされている。すなわち、FD・SD活動は、教学IRと共に、大学の学部教育、大学院

教育の質を保証し、教育目的を達成するために欠かせないものと言える。

FDは学部及び大学院の設置基準において必須事項とされており、すでに各大学は大学として、また部局としてこれを実施しているところであるが、ここでは上記の教学マネジメントにおけるFD・SDの重要性を鑑み、各大学で実施された本事業に関連する教育研究活動を含めた教育プログラムにおける《「三つの方針」を通じた学修目標の具体化》、《授業科目・教育課程の編成・実施》、《学修成果・教育成果の把握・可視化》等を支えるFD・SD活動について、参画大学から報告があった2018年度から2021年度に開催されたものをまとめた。これらは、各大学及び学部・大学院において継続的かつ発展的に実施されているものである。

(1) これまでに実施したFD・SDの回数【2018年度～2021年度】

大学名	開催	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
北海道大学	部局開催	3	3	1	4
	大学開催	2	5	3	6
東北大学	部局開催	156	147	147	136
	大学開催	8	10	10	8
千葉大学	部局開催	13	9	7	9
	大学開催	2	2	2	5
東京大学	部局開催	5	6	1	1
	大学開催				0
富山大学	部局開催	1	1	1	1
	大学開催	1	1	1	2
金沢大学	部局開催	2	2	2	2
	大学開催	4	6	5	5
静岡県立大学	部局開催	3	3	1	2
	大学開催	9	5	1	7
名古屋市立大学	部局開催	1	1	1	1
	大学開催	2	4	2	1
岐阜薬科大学	部局開催				
	大学開催	3	2	1	3
京都大学	部局開催	1	1	3	3
	大学開催	3	2	41	2
大阪大学	部局開催	2	1	2	2
	大学開催	128	173	162	140
和歌山県立医科大学	部局開催	-	-	-	9
	大学開催	-	-	-	
岡山大学	部局開催	5	1	1	2

	大学開催	12	14	17	13
広島大学	部局開催	2	1	2	1
	大学開催	6	56	65	45
山陽小野田市立山口 東京理科大学	部局開催		4	1	1
	大学開催	3		3	1
徳島大学	部局開催	3	2	3	3
	大学開催	1	4		0
九州大学	部局開催	2	2	1	2
	大学開催	11	7	4	52
長崎大学	部局開催	1	1	1	1
	大学開催				多数
熊本大学	部局開催	2	3	2	0
	大学開催	1	1	1	1

(2) 参画大学から報告があったFD・SD【2018年度～2021年度】

<北海道大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	薬害の歴史と薬物治療のリスク管理	講演会＋討論	薬学研究院教員
	ルーブリック評価入門	講演会＋討論	薬学研究院教員
	研究発表会・2回	講演会＋討論	薬学研究院教員
	ネットリテラシー講座	講演会＋討論	薬学研究院教員
	シラバスのブラッシュアップ研修	e-Learning	北海道大学教員
	キャンパスにおけるハラスメントをとらえる視点と予防の重要性	e-Learning	北海道大学教員
	多様な背景を持つ学生への理解と対応	講演会＋討論	薬学研究院教員
2019	研究発表会	講演会＋討論	薬学研究院教員
	THE世界大学ランキング(ルール解説と評判調査からみた北海道大学)	講演会＋討論	薬学研究院教員
	ハラスメント防止研修会	e-Learning	北海道大学教員
	学生相談室から見る学生の悩みと成長	e-Learning	北海道大学教員
	アクティブラーニングの正しい理解	e-Learning	北海道大学教員
	キャンパスにおけるハラスメントをとらえる視点と予防の重要性	e-Learning	北海道大学教員
	新型コロナウイルス流行下における研究・教育活動への取組	講演会＋討論	薬学研究院教員
2020	学生はオンライン授業をどう受け止めているのか	Zoomセミナー	全国の教育機関関係者
	withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか	Zoomセミナー	北海道大学教職員
	ハイブリッド授業の質をどう高めていくか～学生、教員アンケートの結果を基に考える～	Zoomセミナー	教育機関関係者
2021	薬害の歴史と薬物治療のリスク管理	講演会＋討論	薬学研究院教員
	研究倫理をどのように学生に伝えるか	講演会＋討論	薬学研究院教員

	英語でわかりやすい授業をするための話し方	講演会＋討論	薬学研究院教員
--	----------------------	--------	---------

<東北大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	ハラスメント防止対策講習会	講演会	薬学研究科教職員
	ISTU講習会	講演会	薬学研究科教職員
	研究倫理FD	講演会	薬学研究科教職員
2019	研究倫理FD	講演会	薬学研究科教職員
	ハラスメント防止対策講習会	講演会	薬学研究科教職員
2020	ハラスメント防止対策講習会	講演会	薬学研究科教職員
2021	動画視聴・google formでの確認クイズ	その他	薬学研究科教職員
	動画視聴	その他	薬学研究科教職員
	令和3年度ハラスメント防止対策FD	その他	薬学研究科教職員

<千葉大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step2協力医療従事者（学外施設も含む）
	薬学共用試験OSCE説明会	講演会	薬学部教職員
	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step1協力教員
	学生の学習時間の向上を図るために必要な方略について	ワークショップ	薬学部教務委員、薬学部学務係職員
	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step4協力医療従事者
	薬学共用試験OSCE直前講習会	講演会	OSCE参加予定教員
	情報セキュリティについて	講演会	薬学部教職員全員
	成績情報の取扱について	講演会	薬学部教職員全員
	薬学教育評価について	講演会	薬学部教職員
	薬学研究院における情報セキュリティ等対策について	講演会	薬学部教職員全員
	2019年度シラバス作成及びコアカリSBOについて	講演会	薬学部教員全員
	授業評価アンケートについて	アンケート	薬学部授業担当教員全員
	ハラスメント防止に関するFD研修	講演会	教職員全員
	反転授業の導入の仕方と実践事例	講演会	全教員
	カリキュラムマップの作成	講演会	全教員
2019	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step2協力医療従事者（学外施設も含む）
	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step1協力教員
	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step4協力医療従事者
	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step3協力医療従事者
	薬学共用試験OSCE直前講習会	講演会	OSCE参加予定教員
	授業評価アンケートについて	アンケート	薬学部授業担当教員全員
	情報セキュリティについて	講演会	薬学部教職員全員

	薬学研究院における情報セキュリティ等対策について	講演会	薬学部教職員全員
	2020年度薬学部シラバス作成及びコアカリSBOに関するFD研修	講演会	薬学部教員全員
	2040年に向けた高等教育改革	講演会	全教員
2020	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	講演会	亥鼻IPE step4担当教員、協力医療従事者
	薬学共用試験OSCE直前講習会	講演会	OSCE参加予定教員
	オンライン授業のベストミックスとグッドプラクティス	講演会	薬学部所属教員
	シラバス作成に関するFD	講演会	薬学部所属教員
	メディア授業に関しての基礎資料の保管に関するFD	講演会	薬学部所属教員
	情報セキュリティおよび個人情報保護について	講演会	薬学部所属教職員
	ハラスメント防止に関するe-ラーニング研修	講演会	薬学部所属教職員
	第3タームにおける同時双方向型のメディア授業について	講演会	全教員
	2021年度のメディア授業の実施方針について	講演会	全教員
	2021	専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）	Zoomミーティング
専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）		Zoomミーティング	亥鼻IPE step1協力教員
専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）		動画の視聴・資料の送付	亥鼻IPE step4協力医療従事者
専門職連携教育「亥鼻IPE」に関する研修（3学部合同）		動画の視聴・資料の送付	亥鼻IPE step3協力医療従事者
障害学生支援に関する研修		講演会	薬学教員全員
情報セキュリティFD		講演会	薬学教職員全員
情報セキュリティFD		動画視聴	薬学教職員全員
医薬連携に関する研修		講演会	薬学教員全員
科研費獲得に関する研修		講演会	科研費未獲得者
シラバス作成に関する研修		動画視聴	薬学教員全員
授業評価アンケート		アンケート	薬学教員全員
安全衛生に関する研修		動画視聴	薬学教職員全員
メンタルヘルスに関する研修		動画視聴	薬学教職員全員
ハラスメント防止に関する研修		動画視聴	薬学教職員全員

< 東京大学 >

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	東京大学ビジョン2020	講演会	薬学系研究科教職員
	女性の積極的採用及び活躍推進に関する意識啓発について	講演会	薬学系研究科教職員
	ハラスメント防止セミナー	講演会	薬学系研究科職員
	多様性に応じた学生支援について	講演会	薬学系研究科職員
	留学生等受入に関する該非判定にかかる電子申請システム導入について	講演会	薬学系研究科教職員
2019	AIの最新状況とヘルスケア分野の事例	講演会	薬学系研究科教職員

	AMED iD3 創薬支援推進ユニット・キャタリストユニットの役割	講演会	薬学系研究科教職員
	統合報告書2018 IR×IRについて	講演会	薬学系研究科教職員
	学生の自殺防止のために	講演会	薬学系研究科教職員
	Ghost cytometry technologies -image-free imaging cytometry with machine learning-	講演会	薬学系研究科教職員
	東京大学基金「部局キャラバン（部局説明会）」	講演会	薬学系研究科教職員
2020	COVID-19に関連する学生対応の考え方	講演会	薬学系研究科教職員
2021	ストレスと上手に付き合うために	講演会	薬学系研究科教職員

<富山大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	「卒業研究の統一的评价基準について：卒業論文評価」 「卒業研究の統一的评价基準について：問題解決能力評価」 「学術コミュニケーション能力の強化について」 「外部からの大学院入学志願者の増加策について」	小グループ討論 ＋総合討論	薬学部、病院薬剤部及び和漢医薬学総合研究所の教員
	他教員・職員・学生が納得する評価の在り方を模索する	講演会＋小グループ討論＋総合討論	本学教職員（非常勤を含む）、学生及び他大学教職員等
2019	「優れた研究を行うためには」 「薬学教育の現状における問題点と改善策について1」 「薬学教育の現状における問題点と改善策について2」 「大学院教育の質の保証、向上のための取り組みについて」 「優れた研究を行うためには」	講演会＋小グループ討論＋総合討論	薬学部、病院薬剤部及び和漢医薬学総合研究所の教員
	学部を越えた連携教育の発展・拡大に向けて	講演会＋小グループ討論＋総合討論	本学教職員（非常勤を含む）、学生及び他大学教職員等
2020	「工学部って何もの？ 医薬理工系専攻設置に向けた足がかりになれば・・・」 「教育改革に向けたカリキュラム編成について」 「授業満足度の向上について」 「博士・博士後期課程進学を促進する教育支援について」 「大学院改組後の博士前期課程について」	講演会＋小グループ討論＋総合討論	薬学部、病院薬剤部及び和漢医薬学総合研究所の教員
	遠隔授業の今後のあり方を議論する	小グループ討論 ＋総合討論	本学教職員（非常勤を含む）、学生及び他大学教職員等
2021	アクティブラーニングなど講義改善への取り組みについて 令和4年度以降入学生のカリキュラム編	講演会＋小グループ討論＋全体討論	薬学部及び和漢医薬学総合研究所の教員

	成について		
	各部局より、アクティブ・ラーニングの優れた取組み事例を 紹介いただき、情報共有を図る	講演会＋ワークショップ	本学教職員、学生
	学生が主体的に学ぶためのクラスデザイン		本学教員（非常勤を含む）、職員、学生、他大学教職員等

< 金沢大学 >

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	反転授業について	講演会＋小グループ討論＋総合討論	薬学部教員
	薬学系新任教員教務関連研修会	研修会	薬学部新任教員
	平成30度全学FD研修会～新任教員を中心として～	研修会	新任教員
	全学 FD・SD 研修・FD ワークショップ パフォーマンス評価とルーブリック	講演会＋小グループ討論＋総合討論	教員
	FD・SD 研修会 アクティブ・ラーニング型授業の設計	小グループ討論＋総合討論	教員
	英語による授業担当者のための FD 研修会	講演会	教員
	教育実践報告会「英語による授業における授業設計の取組事例」	講演会＋総合討論	教員
2019	アドバイス面談に対する学生の意識-学生アンケート調査結果より	小グループ討論＋総合討論	薬学部教員
	薬学系新任教員教務関連研修会	研修会	薬学部新任教員
	2019度全学FD研修会～新任教員を中心として～	研修会	新任教員
	English for Academics 教員のための英語研修プログラム開催	講演会	教員
	2019年度授業設計ワークショップ	講演会＋討論会	教員、大学院生
	FD報告書成果発表会	講演会	教員
	教育研究従事者が知っておくべき著作権法の知識	講演会	教員
教育実践報告会	講演会＋討論会	教員	
2020	「On-Line研究、教育の進め方－半年間の経験より学ぶ－」	小グループ討論＋総合討論	教員
	薬学系新任教員教務関連研修会	小グループ討論＋総合討論	薬学部新任教員
	新任教員説明会<教育・学生編>・第1回全学FD研修会	その他	教員
	第2回全学FD研修会「オンライン授業設計ワークショップ」	その他	教員
	第3回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」－学類等における組織的FDの取組事例－	講演会＋討論	教員
	第4回全学FD研修会「教育実践報告会」－オンライン型授業及びハイブリッド型授業の優れた取組事例－	講演会＋討論	教員

	英語による授業担当者のためのFD研修会	講演会＋討論	教員
2021	ポストコロナ・ウィズコロナの学生のメンタルケア	講演会＋討論	教員
	薬学系新任教員教務関連研修会	小グループ討論＋総合討論	薬学新任教員
	新任教員説明会（教育・学生編）	研修会	新任教員
	授業評価アンケートについて考える	講演会＋討論会	教員
	STEAM教育の意義や価値について考える	講演会＋討論	教員
	FD活動報告書成果発表会	講演会＋討論	教員
	新任教員説明会（教育・学生編）	研修会	新任教員

< 静岡県立大学 >

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	アカデミック・ハラスメントの防止	講演会	薬学部教員
	脳科学に基づくコミュニケーション能力養成	講演会	薬学部教員
	貴方はAEDを使えますか?～AEDの重要性～	講演会	薬学部教員
	世界大学ランキングは活用できる「武器」である!!	講演会	薬学部教員
	社会の進歩と繁栄に貢献する人材育成について	講演会	教員
	「学ぶスキル」と「書くスキル」の教え方	講演会	教員
	学生の主体性はどうやって引き出すのか? どう育むのか? ～フューチャーセンターや地域教育の事例から～	講演会	教員
	知財・産学連携セミナー「研究活動と知財～大学研究者が特許出願するときのポイント～	講演会	教員
	障害学生への合理的配慮について、発達障害のある学生への支援	講演会	教員
	「アクティブ・ラーニング」なのか -主体的・対話的・深い学びのために	講演会	教員
	『7つの習慣』セミナー	講演会	教員
	「教育から学習へ～新しいパラタイムの意味～第2弾」	講演会	教員
	プレスリリースの書き方と読みやすい記事のまとめ方	講演会	教員
2019	貴方はAEDを使えますか?～AEDの重要性～	講演会・実技	薬学部教員
	最新の薬学教育の動向と、薬学を取り巻く環境変化	講演会	薬学部教員
	危機管理能力向上のための災害時図上訓練 (DIG)演習	講演会・実技	薬学部教員
	実習における合理的配慮(大学開催合同)	講演会	薬学部教員
	オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法「COIL」(コイル)の実践について	講演会	教員
	トランジションに向けた学生の学びと成長 -枠を押さえて枠を超える	講演会	教員
	学生の意欲を引き出す大学教育のあり方	講演会	教員

	レジリエンストレーニングの実際	講演会	教員
	情報発信における動画活用	講演会	教員
2020	大学におけるダイバーシティとハラスメント防止	講演会	薬学部教員
	COVID-19感染対策について	講演会	教職員
2021	薬学教育の質保証とモデル・コアカリキュラムの在り方	講演会（Zoom使用録画動画視聴）	薬学部教員
	薬学部ハラスメント防止研修会	講演会（Zoom使用録画動画視聴）	薬学部教員
	最新学習歴の更新をサポートする大学運営の方向性		教職員
	SDGsの本質と大学でのSDGs教育	講演会	教職員
	発達障害のある学生への理解と支援	講演会	教職員
	ルーブリックを活用した学習成果の可視化	講演会	教職員
	メンタルヘルスケアから健全な職場を作る	講演会	教職員
	最高のオンライン授業の作り方	講演会	教職員
	新型コロナウイルス感染症の現状と行方	講演会	教職員

<名古屋市立大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	研究授業	その他	薬学部教員
	LGBTs 学生支援～大学の組織的な取組を学ぶ	講演会	教職員
	学士課程教育の国際化	講演会+討論	教職員
2019	研究授業	その他	薬学部教員
	国立大学法人改革に学ぶ市立大学の進むべき方向性	講演会	教職員
	学生相談・学生支援の現状と課題	講演会	教職員
	新語学カリキュラムの成果・課題	講演会+討論	教職員
	名市大生が修得すべき能力・資質とカリキュラム	講演会+討論	教職員
2020	研究授業	その他	薬学部教員
	「after コロナ、with コロナ時代のICT・オンライン教育の新展開（仮題）」	講演会	全教員、職員、TA
	「Zoomブラッシュアップセミナー」	講演会	全教員、職員、TA
2021	研究授業	その他	薬学部教員
	コロナ禍における新しい授業・学生支援の取り組み	講演会	教員、職員、学生

<岐阜薬科大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	ハラスメント防止研修（人権・ハラスメント防止委員会との合同開催）	講演会+討論	全職員（嘱託職員含む）

	意識啓発セミナー（ダイバーシティ推進室との合同開催）	講演会	全職員（嘱託職員含む）
	webポータルシステム	講演会	教員
2019	出席管理システム	講演会	教員、担当課（教務厚生課）職員
	学修支援システム「教員ポータル」の運用について	講演会	教員、担当課（教務厚生課）職員
2020	科研費採択の条件	講演会	全職員、大学院生、学部生他
2021	公立大学法人制度とガバナンスの課題	講演会	全職員（嘱託職員を含む）

<京都大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	教員による授業評価	授業聴講+アンケート形式の報告書+協議会への報告	薬学部の講義科目（実習や演習を除く）の担当教員
	全学教育シンポジウム「京都大学の大学院教育の今とこれから」	講演会+討論	京都大学教職員
	新任教員教育セミナー	講演会+小グループ討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇格した教員
	「3つのポリシー」勉強会	講演会・討論	各部局の3つのポリシー策定担当者
2019	教員による授業評価	授業聴講+アンケート形式の報告書+協議会への報告	薬学部の講義科目（実習や演習を除く）の担当教員
	全学教育シンポジウム「2040年に向けた京都大学の教育のグランドデザイン」	講演会+討論	京都大学教職員
	新任教員教育セミナー	講演会+小グループ討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇格した教員
2020	教員による学生評価の高い授業聴講	授業聴講+アンケート形式の報告書+協議会への報告	薬学部専任教員
	オンライン試験に関わる情報交換会	講演会	薬学部教員
	薬学部PandA&Zoom講習会の案内	講演会	薬学部教員
	全学教育シンポジウム「京都大学におけるニューノーマルを展望する」	講演会+討論	教職員
	新任教員教育セミナー	講演会+小グループ討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇任した教員
	オンライン授業に関する講習会・相談会（第1-3回）	講演会+討論	教職員
	オンライン授業に関する相談会（第1-4回）	講演会+討論	教職員
	オンライン授業に関する講習会（第1-2回）学習評価・障害学生支援	講演会	教職員

	私のハイブリッド型/オンライン授業(第1-11回+番外編)ハイブリッド型/オンライン授業における取り組みについて	講演会	教職員
	Teaching Online Workshop@KU	講演会	外国人教員対象
	TA講習会(第1-2回)TAとしてオンライン授業を支援する	講演会	TA
	TA Workshop Supporting Online Courses as TA	講演会	TA
	ミニディスカッションフォーラム第1-5回学生支援などについて	講演会	教職員
	講習会・オンライン試験の方法	講演会	教職員
	ハイブリッド型授業講習会 準備、方法、考慮すべき点について	講演会	教職員
	ハイブリッド型授業体験相談会	講演会	教職員
	こんなこともできる!オンライン授業(第1-3回)ビデオ教材、BookRoll活用	講演会	教職員
	ポストコロナの大学授業(第1-3回)	講演会	教職員
2021	教員による授業評価	講義見学	薬学部教専任教員
	第一回・第二回薬学研究科Faculty Symposium	講演会+討論	薬学部教員、学生
	全学教育シンポジウム「自学自習の精神をより確実に修得させるために一カリキュラムと要卒単位のあり方について」	講演会+討論	教職員
	新任教員教育セミナー	講演会・小グループ討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇任した教員

<大阪大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	身体障がい学生の就学支援と心理的課題について	講演会	薬学研究科教職員
	薬創りに関する製薬企業の視点について	講演会	薬学研究科教職員
	初年次教育の意義と実践	講演会・分科会	全教職員
2019	不登校、精神障がいについて	講演会	薬学研究科教職員
2020	大阪大学オープンアクセス方針について	講演会	薬学研究科教職員
	オンライン授業の評価について	講演会	薬学研究科教職員
	新型コロナウイルスへの対応とその後の教育	講演会・分科会	全教職員
	ブレンド教育の模索と課題-2020年度の総括と2021年度の展望-	講演会・事例セッション	全教職員
2021	事例から考えるハラスメント問題並びにその防止について	講演会(対面+オンライン)	薬学研究科教職員+学生
	阪大版”ブレンド教育“を指してー昨年からのコロナ禍の教育体制を振り返るー	講演会・分科会	全教職員

<和歌山県立医科大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2021	FDとは何か	講演・質疑応答	教員、事務職員

	新入生を対象に実施したアンケートの結果について	講演・質疑応答	教員、事務職員
	薬学教育評価機構による薬学教育第三者評価について	講演・質疑応答	教員、事務職員
	成績評価について	講演・質疑応答	教員、事務職員
	若手研究者セミナー	講演・質疑応答	教員
	科研費 How to get セミナー	講演・質疑応答	教員
	薬学教員モデル・コアカリキュラムの改訂について及び医療人養成のための薬学教育カリキュラムの在り方について	講演・質疑応答	教員、事務職員
	和医大薬学部の発展、教育と研究のために	ワークショップ	教員、事務職員
	薬剤師の養成及び質向上等に関する検討会について	講演会	教員、事務職員

<岡山大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	AO入試を考える～御茶ノ水女子大学新フンボルト	講演会＋討論	薬学部教職員
	新コアカリ対応実務実習と実務実習指導・管理システムならびに責任教員の業務説明	講演会＋討論	薬学部教職員
	CBT問題作成に関する説明および質疑応答	講演会＋討論	薬学部教職員
	薬剤師の将来展望～求められる資質とは？・2回	講演会＋討論	薬学部教職員、学生
	未来懇談会（第1回）	講演会＋グループ討論	教員
	i*see2018	講演会＋グループ討論	教職員、学生
	《分科会》Moodle講習会	講演会	教職員、学生
	第21回桃太郎フォーラム	講演会	教職員、学生
	プレワークショップ	講演会	教職員、学生
	第2回全学TA・SA研修会	講演会	第3・4学期開講担当科目のTA、SA及び指導教員
	《分科会》アカデミック・ライティング科目授業実践報告会	講演会	教職員、学生
	授業デザインワークショップ	講演会＋体験会	教職員
	英語での授業実施に向けた教員研修	講演会	教職員
	未来懇談会（第2回）	講演会＋グループ討論	教員
	《分科会》授業の英語化体験シェアフォーラム	講演会＋パネルディスカッション	教職員
《分科会》発達障がい学生への支援～大学の授業における「合理的配慮」とは？～	講演会＋グループ討論	教職員+TA+SA	
2019	問題解決能力の開発と研究の育て方	講演会＋討論	薬学部教職員
	2019年度第1回TA・SA研修会	講演会	第1・2学期開講担当科目のTA、SA及び指導教員
	新任教職員研修	講演会	教職員
	《分科会》発達障害学生への支援～大学の	講演会	教職員

	授業における「合理的配慮」とは？～		
	《分科会》実践型社会連携教育のイロハ 学生が地域で学ぶ科目ーその作り方と学 び方ー1（調査型を中心に）	講演会＋グルー プ討論	教職員、学生
	Moodle講習会	講演会	教職員
	第22回桃太郎フォーラム	講演会＋グルー プ討論	教職員、学生
	i*see2019	講演会＋グルー プ討論	教職員、学生
	履修相談会報告会	講演会＋グルー プ討論	教職員
	第2回TA・SA研修会	講演会	教員、学生
	《分科会》アカデミック・ライティング科 目授業実践報告会	講演会	教職員、学生
	《分科会》著作権セミナー	講演会	教職員
	《分科会》PBLに基づく大学院教育改革	講演会	教職員
	《分科会》授業におけるICT活用術	講演会	教職員、学生
	Moodle講習会	講演会	教職員
2020	コロナ禍での学生支援とその対応	講演会	薬学部教職員
	新任教職員研修	講演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第1回『学修者主体の教育と指導～ 今日の学修者を理解した授業設計～』	Zoomによる講 演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第2回『学修者主体の教育と指導～ 岡大生パネルディスカッション～』	Zoomによる講 演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第3回『「学修者主体の学び」リ デザイン①学習目標～理論編～』	Zoomによる講 演会	教職員
	令和2年度全学TA・SAオンライン研修会	Moodleによる e-ラーニング	教職員、学生
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第4回『「学修者主体の学び」リ デザイン①学習目標～実践編～』	Zoomによる講 演会	教員、学生
	オンライン授業実施のためのMoodle講習 会（初級編）	講演会	教職員
	桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2020 （第23回桃太郎フォーラム）	Teamsによるオ ンライン講演会	教職員
	Good Practiceから学ぶオンライン授業	講演会	教職員、学生
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第5回『「学修者主体の学び」リ デザイン②評価方法～理論編～』	Zoomによる講 演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修 者主体の教育と指導のためのワークショ ップ」第6回『「学修者主体の学び」リ デザイン②評価方法～実践編～』	Zoomによる講 演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修	MS Streamによ	教職員

	者主体の教育と指導のためのワークショップ」第7回『「学修者主体の学び」リ・デザイン③学修活動～理論編～』	る動画配信	
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第8回『「学修者主体の学び」リ・デザイン③学修活動～実践編～』	Zoomによる講演会	教職員
	オンライン授業実施のためのMoodle講習会（初級編）	講演会	教職員
	令和2年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第9回『次年度に向けて～授業設計における改善計画の立て方～』	Zoomによる講演会	教職員
	オンライン授業実施のためのMoodle講習会（中級編）	講演会	教職員
	Good Practiceから学ぶオンライン授業	講演会	教職員
2021	「生きること」ALSを知る	講演会	薬学部教員
	「コロナ禍での学生教育の変化と現状」	講演会	薬学部教員
	新任教職員研修	講演会	新任教職員
	令和3年度新任教職員教学研修（全5回）	講演会	新任教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第1回『オンライン授業入門』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第2回『Moodle入門』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」特別編『オンライン授業とメンタルヘルス』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第3回『相互評価システムとその効果』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第4回『受講しやすさを意識したオンライン及び併用型授業の実践例』	講演会	教職員
	桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2021（第24回桃太郎フォーラム）	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第5回『オンデマンド・リアルタイム・対面の併用型授業の実践方法』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第6回『学外協力者をつくるPBL授業』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショ	講演会	教職員

	ップ」第7回『ユーチューバーから学ぼう！』		
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第8回『オンライン講義に向けた動画編集入門』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第9回『オンデマンド授業と効果的なフィードバックの方法』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第2回『Moodle入門』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」特別編『オンライン授業とメンタルヘルス』	講演会	教職員
	令和3年度実践FD年間プログラム「学修者主体の教育と指導のためのワークショップ」第3回『相互評価システムとその効果』	講演会	教職員

<広島大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	Bb9の活用方法等について	講演会	薬学部教員・関係事務職員
	アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントについて	講演会	薬学部教員を含む霞地区教員
2019	防火・防災訓練実施説明会	講演会	薬学部教員、薬学部学生、関係事務職員
2020	オンライン授業	講演会	薬学部教員、薬学部学生、関係事務職員
	防火・防災訓練実施説明会	講演会	薬学部教員、薬学部学生部関係事務職員
2021	Moodleの活用方法等について	講演会	薬学部教員・事務職員

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	退学者等対策について考える	講演会	全教員
	高大連携の観点から入試改革を考える	講演会	全教員
	障害の理解と支援	講演会	全教員
	学修成果の可視化の意義と学生の『学び』	講演会	全教員
	これからの時代に求められる大学とIRの役割	講演会	全教員
	「三公立大学その地域の特徴と比較」「電子機器の冷却研究の切っ掛け」「地方大学の発展こそが日本の将来を支える」	講演会	全教員
	組織的な成績評価の構築～高等教育無償化の流れに沿って～	講演会	全教員

2019	学生相談から見た学生像	講演会＋討論	全教員
	今後の工学教育の在り方と方向性ならびに工業連携について	講演会	全教員
	学修成果の可視化の意義と学生の『学び』	講演会	全教員
	進路相談からみた本学学生の特徴について	講演会	全教員
2020	薬学教育評価機構による大学説明会	講演会	薬学部教員
	オープンイノベーション時代における起業と経営について	講演会	全教員
	THE世界大学ランキングとその活用	講演会	全教員
	これからの産学連携研究開発 植物化学の原点に学ぶエッセンシャルオイル、テルペンの無限の可能性開発	講演会	全教員
2021	東京理科大学薬学部合同でのFD研修会テーマ： 1. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向か対応について 2. 薬学研究科博士課程における学生の輩出及び研究者育成について	講演会＋事例紹介＋意見交換	両大学の薬学部長、学科主任、大学院幹事長、両学科担当教員等
	ループリックによる学力保障～	講演会	全教職員

<徳島大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	学部及び大学院教務関係事項	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員
	研究倫理	小グループ討論＋全体発表	医学部、歯学部、薬学部教員
	シラバスの書き方	講演会＋ワークショップ	薬学部教員
	入学者選抜	講演会＋質疑応答	薬学部入試委員
2019	学部及び大学院教務関係事項	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員
	研究倫理	小グループ討論＋全体発表	薬学部若手教員、大学院生
	授業設計	講演会＋ワークショップ	医学部、歯学部、薬学部教員
	シラバスの書き方	講演会＋ワークショップ	医学部、歯学部、薬学部教員
	教育研究	講演会＋ワークショップ	医学部、歯学部、薬学部教員
	アイスブレイク	講演会＋ワークショップ	医学部、歯学部、薬学部教員
2020	学部及び大学院教務関係事項	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員
	遠隔講義	講演会	薬学部教員
	研究倫理	小グループ討論＋全体発表	薬学部教員、大学院生

2021	学部及び大学院教務関係事項	関係委員会委員長からの説、質疑応答	薬学部教員
	薬学部研究倫理プログラム	エクセルファイルを用いて各自が実施し提出、アンケート実施	薬学部教員
	学部及び大学院教務関係事項	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員

<九州大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	M2B/Moodleに関するFD	講演会	教員
2019	「男女共同参画推進」や「ワークライフバランス推進」のために九州大学に求める今後の支援・施策等	講演会	教職員
	「Scopusの論文データを用いた薬学研究院の研究力分析」および「BIツールを用いた研究力分析の紹介」	講演会	教員
2020	創薬産学官連携セミナー	講演会	教職員
	令和2年度馬出地区4部局合同男女共同参画FD	講演会+討論会	馬出地区の各部局構成員(学生含む)
	M2B学習支援システム講習会	講習会	本学に在籍する教職員
	大学教職員の多様な働き方について	講演会	大学教育に関心を有する方
2021	ループリックを活用した評価と授業改善	講演会	大学教職員、高校教職員などの教育関係者
	第2回創薬産学官連携セミナー	講演会	教職員、学術研究員、大学院生
	第3回創薬産学官連携(感染症研究拠点WG共催)セミナー	講演会	薬学研究院の教職員、感染症や医薬品開発・品質評価に興味のある研究者

<長崎大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	学習成果基盤型の薬学教育に対する第三者評価を考える	講演会	薬学部教員
2019	令和の入学選抜方法と多様な学生への対応	講演会	薬学部教員
2020	オンラインによる新しい講義スタイルへの変換	講演会	薬学部教員
2021	長崎の近代薬学の歴史と薬学初年次教育への展開、歴史教育の実際～初年次セミナーの事例～、長崎大学薬学部の入試改革	オンライン講演会	薬学部教員

<熊本大学>

年度	テーマ	実施形態	対象
2018	平成31年度実務実習(新コアカリ)説明会	説明会+意見交	薬学部教員、県内薬剤師

		換会	
	PROGテストの結果に付いての意見交換会	説明会+意見交換会	薬学部教職員
	授業参観	説明会+意見交換会	薬学部教職員
	実務実習における合理的配慮について	説明会+意見交換会	教員、事務職員
2019	令和元年度病院実務実習に関する合同説明会	説明会+意見交換会	薬学部教職員、県内薬剤師
	PROGテストの結果に付いての意見交換会	説明会+意見交換会	薬学部教職員
	薬学6年制教育・研究に向けた大阪大学の新たな取り組みについての講演会	説明会+意見交換会)	薬学部教職員、事務職員
	学修成果の把握・可視化についての講演会	講演会	教員
2020	PROGテストの結果に付いての意見交換会zoom	説明会+意見交換会	薬学部教職員
	令和2年度薬学部・薬学教育部授業計画書(シラバス)の入力方法の勉強会zoom	説明会(オンライン)	薬学部教職員
	授業参観 4回	授業参観	薬学部教職員
	学びのユニバーサルデザインについての講演会zoom開催	講演会	教員、事務職員
2021	令和3年度 FD 講演会「ルーブリック評価の活用」	講演会(オンデマンド)	教員

このように、参画大学においては多岐に及ぶテーマや携帯によってFD・SD活動が活発に実施されているところである。FD・SD活動は、上記の通り教学マネジメント指針において、教学IRと共に教学マネジメントを支える基盤として取り上げられており、大学の教育研究活動のポテンシャルを示す重要な指標の一つとなっている。今後は、参画大学間の情報共有の上、本事業による“高度先導的薬剤師の養成”に向けた大学間連携によるFD・SD活動も視野に入れて、さらなる充実・高度化を図りたいところである。

2. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動

第3期中期目標期間は、薬学にける教育研究において非常に大きな変革期であり、2015年度入学生から導入された現行のコアカリに沿った薬学教育を実践しつつも、次期コアカリも視野に入れたカリキュラムの志向が求められ、また三つの方針の一貫性あるものとしての策定と実質化、入試における「学力の三要素」の的確な評価、教学マネジメントシステムの確立が求められている。

このような教育研究活動の変革が求める中で、国公立19大学は、2018年度に本事業に係る機能

強化経費が基幹経費化されたことを契機に、本事業を基盤として、薬学教育研究における諸課題に対する的確な対応、すなわち変革に堪えて教育研究活動の充実と高度化を達成するための方策の提言とその全国公立大学の連携による推進を図ることを目的として、2019年に国公立大学薬学部長（科長・学長）会議のもとに国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会（検討委員会）が設置された。現在、早急な解決や的確な対応が求められる課題としては、

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方
- (2) 実務実習実施体制
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応
- (4) 第三者評価への対応
- (5) 共用試験の在り方
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方
- (7) 臨床研修制度
- (8) その他

があげられる。これらの課題については、すでに参画大学はそれぞれ、あるいは大学間の協働、さらには全大学の連携によって解決や的確な対応に受けて取り組んでおり、その状況や成果については別項で報告するところである。

本項では、こういった課題を中心に、それぞれ解決や対応に向けて今後国公立大学において本事業を中心にどのような教育研究活動を行うべきかについて、上記検討委員会が設立された2019年度から2021年度までに参画大学から出された意見や提言をまとめた。なお、(8) その他としては、「学部・大学院における制度改革、育研究体制・教育課程・教育研究プログラムの整備」及び「国公立大学の使命としての薬学研究の充実、優れた研究者の育成」に係る課題や提言が主であったので、まず冒頭でこの2項目を取り上げた。

【薬学6年制教育研究にかける課題とその解決・的確な対応に向けた意見・提言】

○ 学部・大学院における制度改革、教育研究体制・教育課程・教育研究プログラムの整備

- ・国公立大学は、薬剤師養成を目指す私学とは異なる教育・研究のあり方を確立すべきである。
- ・薬学科2コースの設置を進めるべきである。
- ・教育内容が臨床に偏り、基礎薬学が疎かになる傾向があるのではないか。6年制薬学出身者には、臨床・基礎などを問わず様々な医療に関わる場所での活躍が求められる。その中で、全ての基本となる基礎薬学の充実も必要であると考えます。
- ・6年制薬学教育では、臨床実務に関する教育のウエイトが増えてきている。そのこと自体は問題ないが、近年の薬学教育に関する議論では『大学教育のみではなく卒後教育も含めた総合的な薬剤師教育の中で大学教育は何をすべきか?』という観点が少し薄いように感じる。薬剤師の臨床業務は益々高度化、広範化していくことが予想されるが、それらすべてを大学教育に取り入れることは総合的な薬剤師教育の観点からは不合理と思われる。生涯学習も含めた薬剤師教育やキャリアプランを明確にした上で、そのプロセスの中で『大学がその特徴を活かして最も効率よく教育できる内容』を優先的に大学で教育するといった議論が必要であ

る。その過程で卒業研修なども議論されるべきかと考える。

- ・国公立は税金で維持されている教育機関であり、私立大学とは異なる視点での国家・国民への貢献を考え、推進するべきと考える。
- ・現状、6年制薬学教育が臨床教育に偏りすぎている。一方で臨床教育の場で「論文の書き方や研究の進め方」といった学習は行われていない。大学教育のみではなく卒業教育も含めた総合的な薬剤師教育の中で大学教育は何をすべきか、という観点でカリキュラムを考える必要がある。
- ・薬剤師養成を目指す私学とは異なる教育・研究のあり方を確立できると良い。
- ・既存の実務実習に関するコアカリキュラムをスリム化し、臨床で研究に取り組む時間を含めると研究力の強化につながる。
- ・国公立大学薬学部の多くが附属病院を持つことから、それらの利点を生かしたプログラムを組むことが望まれる。
- ・実務実習の長期化やPostOSCEなど研究活動の縮小を考慮しない新しい教育的取組が過度に評価される一方で、学生や教員の研究成果が同等に評価されていないことについては、改善すべきである。

○ 国公立大学の使命としての薬学研究の充実、優れた研究者の育成

- ・国公立大学の役割として「将来の薬学を牽引する人材を輩出する」という重要な役割があると考え。そのために、研究マインドの醸成、その延長線上として博士課程進学者増をはかる必要性を強く感じる。
- ・全ての国公立大学と薬剤部が参画する共同研究の企画・推進が必要である。
- ・卒業研究をさらに充実させて、卒業研究のテーマや実施機関の選択肢を広げ、科学的な課題解決が可能な人材育成をさらに強化する必要がある。
- ・国公立大学間で研究発表や研究セミナー等の学生交流の場を設けて研究に対する意識を高めることが有効である。
- ・既存の実務実習に関するコアカリをスリム化し、臨床で研究に取り組む時間を含めると研究力の強化につながる。

○ モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方 [上記課題(1)]

- ・コアカリ改訂を受けて、国公立大学薬学部・薬学研究科は、これからの薬剤師ならびに薬学を牽引する優秀な人材育成を大目標に教育の進め方を再度見直す必要がある。
- ・改訂コアカリは、
 - 国公立大学の教育研究上の目的や三つのポリシーに合ったカリキュラムが策定できるように、自由度の高いものとする。
 - 「包括的であるが、学生の質、大学の状況に応じて選択が可能となる自由度を設ける」方向が望ましい。
 - 大学独自の教育がより実践できる内容とする。

- ▶ スリム化が必要である。
- ▶ 大学ごとでの独自性を発揮できる柔軟なものとする。
- ・大学独自の教育がより実践できる体制作りを希望します。
- ・薬系大学全体として、6年制薬学教育のコアカリにおける卒業研究の必須化を確認し、これを全大学で実施すべきである。
- ・コアカリや教育評価における卒業研究の軽視傾向に対し、国公立大の学生にとっては研究活動が重要な人材育成の場であることが明示できるように改善を求める必要がある。
- ・コアカリの達成状況に関する統一基準（ルーブリック等）を検討し、設定する必要がある。
- ・薬学基礎科目と臨床系の科目が連携して教育を進められる新しい授業体系の構築が必要である。
- ・国公立大学主導で、講義中心の授業から課題解決型能力開向上を目指す新しい授業を積極的に取り入れるべきである。

○ 実務実習実施体制 [上記課題(3)]

- ・各大学が、自大学のミッションに沿った薬剤師、研究者、大学教員の養成を図り、社会に貢献することが肝要である。そのためにも、例えば病院と薬局での柔軟な実務実習期間の設定、臨床研究を含むコアカリ以外の実務実習の導入などの実務実習をはじめ、各大学の裁量に任せた教育の推進が必要であると考える。
- ・大学の独自性、特に国公立大学の物的・人的リソースを活用した実務実習の体制整備、実施が求められる。
- ・それぞれの大学のディプロマ・ポリシーにあった実務実習が行えるように実習期間やカリキュラム等について柔軟性を持たせる必要がある。
- ・実習期間の見直しを行う必要がある（全体の期間及び薬局と病院の配分など）。
- ・薬剤師免許はとるが薬剤師として働かない学生も多い。そういった学生の実務実習は体験型ではなく見学型として、将来薬剤師として働く場合は研修を受けるといった制度とすべきである。
- ・事前学習で使用する面談系課題の模擬シナリオ（前事業の成果）について、可能な範囲で共有した方がよい。
- ・既存の実務実習に関するコアカリをスリム化し、臨床で研究に取り組む時間を含めると研究力の強化につながる。
- ・実務実習の今後について、実習の本来の目的、性質から考えて基本的な部分は共通であるべきと考える。薬局の11週を短くするなどを含め、全体を圧縮し、オプションで大学が教育したい内容を実施できる制度を目指すべきと考える。ただし、地域内での調整、ふるさと実習の実施等もあることから、病院、薬局、各大学間での無理のない調整と実習実施が可能であることが前提となる。

○ 第三者評価への対応 [上記課題(4)]

- ・機関別認証評価との重複をなくし、簡略化する必要がある。

- ・第三者評価の内容が細かく、また教員が費やすエネルギーも大きいことから、内容の改善を求めたい。

○ 共用試験の在り方 [上記課題(5)]

- ・薬学共用試験（特に、OSCE）の実施体制、内容の見直しが必要である。
- ・共用試験センター管理ではなく、大学ごとの共用試験（特にOSCE）の実施が求められる。大学毎に実務実習を行うために必要な知識・技能・態度を評価すればよい。
- ・Post OSCEなどに6年生の時間を浪費させない方策が必要である。
- ・共用試験センターにおけるOSCEの課題について、マニアックで実際に実習に必要なと考えると考えられる課題も見受けられ、改善を求める必要がある。
- ・OSCEに関して、すでに10回以上実施した実績があり、モニター員の派遣により厳密な監視が行われてきた結果、殆どの大学で問題ない運用が行われている。毎年、本試験・追再試験の度に事前審査書類を作成し、他大学の事前審査書類の審査、会場の設営を含むOSCEの実施準備などを行っている臨床系教員の負担軽減や経費負担の軽減など、改善する方向性の議論が必要である。
- ・共用試験OSCEの課題数が増加し、在宅医療など範囲も広がっていることは、社会的ニーズを考えると妥当と思われるが、それであれば機械やAIが担当可能となっている調剤（特に薬包紙での分包など）の項目を減じるなどの対応が望まれる。薬剤師の職能が広がるのは良いことであるが、6年間の限定された教育期間ですべきことには限度があることから、優先すべき事柄を整理して欲しい。
- ・OSCEをもう少し簡素化できないか。厳正に行うことは重要だが、各大学によって環境等も異なることから状況に応じた対応ができるようすれば負担が減るのではないか。
- ・CBTは、問題漏洩防止業務の負担が大きい。問題が開示されれば試験監督業務が軽減され学生も勉強しやすくなる。プールされた問題数が十分に増えたら開示することであったが、開始より10数年経っても未だ実現されていない。CBTの出題方針や作問方針等を見直すなどしてプールされた問題数を早急に増やすように薬学共用試験センターに働きかけるなどの対応が必要である。
- ・CBTについて、問題作成・集積方法に課題があることに加え、真に実務実習を行うために必要な知識を問う設問内容になっているか議論・評価する必要がある。医療現場において現実の患者を相手に対人業務を行う実習に出すべきではない学生の選別は、現状のCBTでは不十分と考えており、禁忌肢問題の積極的活用についても議論が必要と考える。

○ 大学院博士課程における教育研究の在り方 [上記課題(6)]

- ・薬学全体では社会人の博士課程入学が多いが、国公立大学では各大学において自学部から4年制博士課程への進学を促進することが重要である。
- ・国公立大学の役割として「将来の薬学を牽引する人材を輩出する」という重要な役割があると考えている。そのために、研究マインドの醸成、その延長線上として博士課程進学者増をはかる必要性を強く感じる。

- ・薬学の教育研究に指導的な立場で貢献できる薬学研究者（博士号取得者）の育成をより実践できる体制作りが必要である。
- ・個々の大学だけでなく、国公立大学間の連携、国公立大学附属病薬剤部との連携、国公立研究機関との連携によって、博士課程修了後のキャリアの多様性（職種、地域、キャリアパス）を確保することが有用である。
- ・経済的支援制度（公的奨学金、大学独自の支援）の充実が必要である。
- ・海外の薬学教育に関する調査に基づいて互換性について検討する必要がある。
- ・6年制教育を受けた学生が卒業して10年以上たち、1・2期生は社会の中堅になりつつある。学部生や卒業生に対して、6年制薬学部卒業生のキャリアパス、あるいは博士課程修了者のキャリアパスについて事例紹介を行う必要がある。
- ・学部・大学院・社会と一連の魅力的なキャリアプランを複数提示し、そのキャリアプランをサポートするような教育コース等を大学・大学院に準備する。
- ・薬学の教育研究に指導的な立場で貢献できる薬学研究者（博士号取得者）の育成をより実践できる体制作りが必要である。

○ 臨床研修制度 [上記課題(7)]

- ・薬剤師の臨床業務は益々高度化、広範化していくことが予想されるが、それらすべてを大学教育に取り入れることは総合的な薬剤師教育の観点からは不合理と思われる。生涯学習も含めた薬剤師教育やキャリアプランを明確にした上で、そのプロセスの中で『大学がその特徴を活かして最も効率よく教育できる内容』を優先的に大学で教育するといった議論が必要である。その過程で卒後研修なども議論されるべきかと考える。
- ・現状、6年制薬学教育が臨床教育に偏りすぎている。一方で臨床教育の場で「論文の書き方や研究の進め方」といった学習は行われていない。大学教育のみではなく卒後教育も含めた総合的な薬剤師教育の中で大学教育は何をすべきか、という観点でカリキュラムを考える必要がある。
- ・研修制度については、既に国立大学（医学部）附属病院はレジデント制度をとっているところが多く、6年制の薬学部卒業生で病院薬剤師を目指している者は、非常勤職員相当の給与をもらいながら大学病院での勤務経験（キャリア）として数年の臨床研修を積んでおり、レジデント制度の充実についての検討が先と考える。研修制度については、国公立、私立の区別をつけるべきではない。

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会 とりまとめ（提言概要）

令和3年6月30日公表

薬剤師の養成等

- **養成（入学定員、薬剤師確保）**
 - ・ 将来的に薬剤師が過剰になると予想される状況下では、入学定員数の抑制も含め教育の質の向上に資する、適正な定員規模のあり方や仕組みなどを早急に検討し、対応策を実行すべき。
 - ・ 併せて、薬剤師の確保を含め、偏在を解消するための方策を検討することが重要であり、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべき。
 - ・ 今後も薬剤師の業務実態の把握、継続的な需給推計を行い、地域偏在等の課題への対応も含めた検討に活用すべき。
- **薬学教育（カリキュラム、教員、卒業までの対応）**
 - ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しを検討する際には、本とりまとめの今後の薬剤師が目指す姿を踏まえたカリキュラムとすべき。
 - ・ カリキュラムは、臨床に関する内容、在宅医療への対応のための介護分野の内容、OTCの対応や健康サポート機能への取組により地域住民の健康増進を進めるための内容、感染症や治療薬・ワクチンに係る内容、コミュニケーション能力に係る内容についても、さらに充実すべき。
 - ・ 研究能力を持つ薬剤師の育成も重要であり、国家試験対策中心の学習に偏重することなく、6年間を通じた研究のカリキュラムを維持すべき。
 - ・ カリキュラムを踏まえた教育に対応できる教員の養成と質の向上が重要である。最新の臨床現場の理解と研究能力を有することが必要である。
 - ・ 修学状況（進級率、標準修業年限内の国家試験合格率など）等の課題を有する大学が存在する状況を改善するため、これらの情報の適切な公表、薬学教育評価機構による第三者評価結果の効果的な活用、評価結果のわかりやすい公表等を行うべき。
- **国家試験**
 - ・ 定期的に合格基準・出題基準の見直し要否の検討を医道審議会で行うべき。
 - ・ 国家試験の基礎科目は薬学共用試験のCBT（知識を問う問題）の充実により軽減し、臨床に関する問題を中心とすることを検討すべき。

薬剤師の業務・資質向上

- **薬局及び医療機関の薬剤師の業務（調剤業務、ICT対応）**
 - ・ 対人業務の充実と対物業務の効率化のためには、薬剤師しかできない業務に取り組むべきであり、それ以外の業務は機器の導入や薬剤師以外者による対応等を更に進めるため、医療安全の確保を前提に見直しを検討することが必要である。（本検討会で引き続き検討）
 - ・ 電子処方箋や電子版お薬手帳等のICT化による情報共有、薬局・医療機関等の間での連携方策に取り組むべき。
- **薬剤師の資質向上（卒後研修、生涯研修・専門性）**
 - ・ 臨床実践能力の担保のためには、薬学教育での実習・学習に加えて、免許取得直後の臨床での研修が重要であり、卒前（実務実習）・卒後で一貫した検討が必要である。研修制度の実現に向けて、卒前の実務実習との関係性を含め、研修プログラムや実施体制等について検討すべき。
 - ・ 生涯研修として薬剤師認定制度認証機構（CPC）の認証を受けた研修機関が実施する研修を活用すべき。
 - ・ 学会等で行われている薬剤師の専門性の認定に関しては、第三者による確認など、認定の質の確保について検討が望まれる。

図2 「厚生労働省薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめ・概要

参画大学から寄せられた解決すべき課題や提言については、すでに国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会において検討を始めており、また本事業の一環として取り組んでいる事案もある。第3期中期目標期間が終了するにあたり、これらをあらためて整理・明確化し、検討委員会での議論と具体的かつ有効な解決策や対応策の提言を待ちたい。

なお、上記の通り参画大学から出された本項の意見、提言の多くは、2021年6月に公表された厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめ・概要（図2）の「薬剤師の養成等・薬学教育（カリキュラム、教員、卒業までの対応）」の内容と一致するものであり、2019年から開始した検討委員会におけるこのような課題に対する解決策や対応策の検討、ひいては国公立大学におけるあるべき教育研究活動の追求は、社会や医療現場からの6年制薬学教育に対する要求を先取りしたものとと言える。